

中流域の地場産業、上流域の自然を丸ごと体験する

公害を乗り越える



安田瓦、草水石、分田砂利、酪農…

中流域独特の風土から生まれた地場産業の数々…。

1 安田瓦の歴史とまちづくりを学ぶプログラム ~やすだ瓦ロードの挑戦~

江戸末期からの伝統を誇り、その美しさと品質の高さから地域ブランドとして名高い「安田瓦」は、阿賀野川が安田の大地にもたらした良質な粘土が使われています。近年、需要が落ち込む安田瓦への危機感を背景に、瓦の装飾を楽しんで散策できる「やすだ瓦ロード」も誕生し、町を訪れた人々と積極的な交流を進めています。

そんな安田瓦の関係者などから現地をガイドしてもらい、安田瓦の歴史や製造工程、瓦を中心としたユニークなまちづくりの様子を学ぶ中から、産業と地域の持続可能な関係を考えます。



実施場所: やすだ瓦ロードなど 所要時間: 1時間 受入人数: 要相談 休み: 原則なし

「瓦工場の見学」を追加される場合は要相談

2 酪農発祥の地の安全・安心・美味しい牛乳づくりの舞台裏を学ぶプログラム



実施場所: 神田酪農 所要時間: 1時間 受入人数: 要相談 休み: なし

「阿賀のたいひ」

この地域の牛舎から出る牛の排泄物は施設に集められ堆肥に姿を変える。さらにそれは牛の牧草の肥料に…



試飲あり!



「酪農発祥の地の資源循環を学ぶ」を追加される場合は要相談

3 土と共に生きてきた小田製陶所の取組を学ぶプログラム



かつて安田地域は瓦以外でも、その良質な粘土を生かした製陶や窯業が盛んでしたが、時代の変化と共に大半が廃業しました。そんな中、地域で唯一生き残り続ける小田製陶所は、水がめづくりから始まり、蒸しかまどや本焼陶管などの製造を経て、戦後は田畠の暗渠排水土管を主力商品にしました。現在は環境に優しい焼きものづくりを模索するなど、時代の変化を見えた事業展開に余念がありません。

明治期に操業を開始した趣ある工場を見学しながら、土と共に生きてきた小田製陶所の取組を学んだ後、粘土遊びを通じて実際に土に触れる体験ができます。

粘土遊び 体験付き!



実施場所: (有)小田製陶所 所要時間: 1時間 受入人数: 要相談 休み: 繁忙期 10 ~ 12月



「蒸しかまど」ってご存知ですか?

小田製陶所では、昭和20~30年代まで、炭でご飯が炊ける「蒸しかまど」を製造していた。炊き方も独特で、驚くほど美味しいお米が炊けるのが特徴。



「蒸しかまど炊飯体験」を追加される場合は要相談



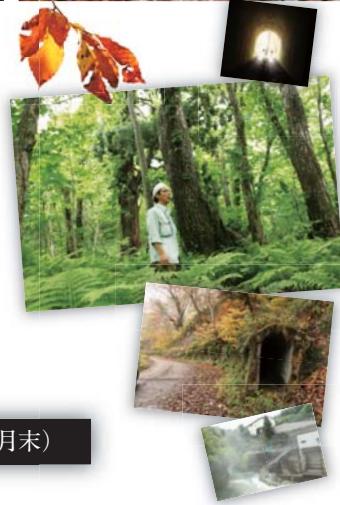


4 奥阿賀の広大なブナ原生林を体感するプログラム

上流域の奥地、実川や日尊の倉山(室谷)には、国内でも有数のブナ原生林が広がっており、人が滅多に足を踏み入れない自然の水源地となっています。こうした広大な山林が、大河・阿賀野川に清らかな水を提供してきました。これから持続可能な環境を考える上で、こうした自然環境が果たす役割を学んだり、人間と自然との関係を見つめ直し共生する心を育むことが重要となってきます。

本ツアーでは、多様な機能を併せ持つブナ原生林を題材に、環境ガイドの案内のもと、貴重な自然環境を五感で直接体験しながら学びます。

実施場所:日尊の倉山 or 実川渓谷 所要時間:2 時間 受入人数:要相談 休み:冬期(11月末～4月末)



**貴重な自然の宝庫を体感できる舞台、
大河を育んできた阿賀野川上流域から学ぶ…。**

5 巨大なビオトープ・たきがしら湿原 を舞台にした自然観察プログラム

たきがしら湿原は人工的に造られた珍しい湿原で、いわば人の手で管理された巨大なビオトープです。現在では46種も確認されるトンボを始め、様々な水辺の動植物に直に触れて観察できる貴重な空間となっています。地元ガイドの案内で、多様な生物が暮らせる環境を保護・維持する大切さや難しさを学ぶことができます。



実施場所:たきがしら湿原
所要時間:2 時間
受入人数:要相談
休み:冬期(11月末～4月末)



実施場所:出張可 所要時間:1 時間 受入人数:要相談 休み:なし

これまでの流域再生 これからの流域再生

阿賀野川流域で地域再生がスタートしたのが、平成19年の秋。それ以来、流域再生は下記のとおりステップアップしてきました。

本プログラムでは、流域再生におけるこれまでの経緯を丁寧に振り返り、今後の方向性や戦略などを解説します。現在、全国各地で取り組まれる「地域再生」や「持続可能な地域づくり」などの課題について、考えを深める絶好の機会となるでしょう。

H 19
阿賀野川
えとこだ
プロジェクト

新潟水俣病における
「もやい直し」の実現

H 23
阿賀野川
エコ
ミュージアム

阿賀野川流域における
「新しい公共」の樹立

右のオプションプログラムもどうぞ!

これから
あがのがわ
環境学習
ツアーリ
経済的自立の模索と
持続可能性への挑戦



「ロバダーン!」(炉端談議)から広げる新しい地域づくりの手法を学ぶ

流域再生がここまで進展した背景には、「ロバダーン!」と呼ばれる少人数の寄り合いを、流域各地でこれまで100回以上開催してきた地道な取組がベースにあります。この「ロバダーン!」を活用した新しい地域づくり手法を学べるオプションプログラムです。

「紙芝居」から広げる地域の環境 学習・郷土学習の手法を学ぶ

これまで阿賀野川流域の各学校では、地元で発生した公害を、地域の環境学習や郷土学習のテーマとして、あまり扱っていませんでした。しかし、流域再生の過程で生まれた「紙芝居」を上手に活用することで、授業で取り扱われる機会が増えています。こうした紙芝居を授業に活用する教育手法を学べるオプションプログラムです。